

だっこするよ

2023年8月



社会福祉法人茂原高師保育園
園長 奥戸 昌子

平和を自分の言葉で語り合おう

8月、一段と蝉の声が賑やかになってきました。異常な酷暑が続いています。人間が100年かけて二酸化炭素を排出し続けてきたための地球温暖化が進んでいます。これから、100年かけて守りたい未来へつなぐにはどうすればいいのか、生活の中で取り組めること、資源を大切にすること、無駄を省くこと…地道に行っていきたいと思います。

さて、どんだんさん達が、力を合わせて作ったお神輿、ワッショイワッショイと夏祭りを盛り上げてくれました。夏祭りには、疫病退散、厄除けの意味があるそうです。どんだんさんたちの賑やかな掛け声に疫病たちも驚いて退散したことでしょう。子どもも大人も栄養と休息を取り、健康に過ごしていきましょう。

8月15日、今年、78回目の終戦記念日を迎えます。ロシアのウクライナ侵攻が始まってから一年と5か月が過ぎ、未だ終息の兆しすら見えません。戦争を止める力は国連にも、誰にも無いのでしょうか。この戦争でどれだけの尊い人命が犠牲になったのか計り知れません。両国ともに当たり前で食事を囲んでいた家族の暮らしがあり、それぞれの人生が豊かに続いていたはず。国家のために民間人が犠牲になる現実。平和的解決を願うばかりです。

毎年、園長として、また、先に生きてきた人間として「平和について」そして、「憲法九条について」子ども達と語り合う時間をもっています。自分につながる世界で起きていることを話し合うことは、とても大切

です。問いかけるとそれを伝える機会が無かっただけのように、見聞きした情報を自由に発言してくれます。争いごとの痛みがシンプルに分かり、自分事として捉える力は素晴らしいです。

原爆が広島に投下された日を絵本にした「8月6日のこと」文・中川ひろたか 絵・長谷川義史 この絵本は、中川ひろたかさんのお母さんの実話が絵本になったものです。核爆弾ピカドンの威力、戦争の恐ろしさが一瞬で伝わり、子ども達は静かに聞いています。そして、「へいわとせんそう」文・谷川俊太郎 絵・Noritake ブロンズ新社 戦争と平和を絵で比べて読者がどう感じるのかを引き出してくれる絵本です。三冊目は「子どもに伝える日本国憲法」文・井上ひさし 絵・いわさきちひろ 井上氏は、「先のむごたらしい悲しい戦争から学び、私たちはこの国のカタチを憲法にまとめた。私たちが穏やかに生きることが他のなによりも大切だ。この国の決まりごとを守り、平和をつくろう」と書かれています。世界平和へとつながる一歩は、自分事として考える、そして、どんだん語り合うことだと思います。紹介した本は、事務所に置いてあります。是非、お読みください。

新クラスになり4か月が過ぎました。新入園の乳児さんも安心して担任に甘える姿が見られます。幼児組では、異年齢保育に慣れるまでお子さんの緊張や不安に寄り添っていただき本当に有難うございます。様々な戸惑いがあったと思います。しかし、子ども達は、この4か月をかけて、一人ひとりが自分自身で、環境の変化を乗り越えて、自立し、友達とつながり、主体的に生活を楽しんできました。6つのおうちで、きょうだいのように育っています。異年齢保育への移行は、人間はそもそも凸凹で、みんな違ってみんないいんだよ〜と「人間」の枠をありのままに自由に捉えられる人になって欲しい、それが互いの人権を尊ぶことだよ〜と始めました。子ども達は、見事に互いの個性を尊重して、生活しています。

先日、公開保育を行い、見学者から「遊び込んでいて年齢が分からなかった。」「それぞれの違う遊びや活動をしていても認め合って自由に過ごしていた」「遊びの環境が充実していた」との感想をいただきました。

今こそ、多様な仲間と生活することの重要性を感じます。相手をケアしたくなる思いと体験を皆で積み重ねていく、それは、子ども達自らが人間教育を学んでいるのだと思えてきました。写真は、夏祭りだ！ワッショイ！